

# 小学校英語教科化先行実施に向けた平成 29 年度の取組について

## 小学校英語教科化推進委員会（2年目）

英語を使ってコミュニケーションの楽しさを体験し、文字への慣れ親しみを図る。（児童）

3・4年＜活動型＞35h

- ・「聞くこと」重視
- ・身体ごと学ぶ
- ・文字を扱う指導
- ・絵本教材の導入

5・6年＜教科型＞70h

- ・補助教材 “Hi, friends Plus” の活用、文字と音の認識、読み書き教材あり知的好奇心

3

3学期～まとめ  
反省と報告。授業DVD作成。

Goal



英語を専門としない学級担任が、特別な準備をしなくても文科省から示された指導書、指導事例やカリキュラムにそって単独授業ができる。

数、色、動物、食べ物、曜日、天気、スポーツ、文字など

2

2学期～推進委員の公開授業。

支会毎に参観。研究授業でなく、一般化できることを目指す。

先行実施のためのカリキュラムと教育課程への提案

月	日	曜日	時間	内容	出席者

3・4年生については45分で外国語活動を行う。モジュール（短時間学習）は5・6年のみ対象。

1

1学期～授業のための教材整備と指導技術などの実践・研修、英語教育担当指導主事が委員のクラスを訪問授業

「広く、浅く、万遍無く」事前集中授業をしない。一発授業でなく、系統性継続性を重視。教材整備も公開に含める。指導の原案や指導法は委員会にて提案や支援を行う。

### 研発校の実践に学ぶ教科化・外国語活動早期化

小諸市内小学校

- ・HRT 主導の T-T 授業～ Today 's Plan(本時の計画)を ALT が尋ね
- ・意味のある場面での活動
- ・「文字を扱う」指導は3年からフォニックス\*（新CS先取り）

7/3 前橋市内小中学校県外視察、文科省研発校。モジュール授業と1コマ増2つの小学校、All English 授業の中学校視察

### モジュール学習のねらい

既習内容を指示少なく反復練習単なる15分×3ではない。

### HRT の役割の重要性

コミュニケーションのモデル必ずしも英語のモデルでない小学校の全人教育～他教科や短時間学習など日常場面やクロス・カリキュラムの指導の可能性を生かす。

全教科の中の一つが英語、という横並びでとらえる